

## 2023年度決算について

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は、2023年6月期決算(2022年7月1日~2023年6月30日)を取りまとめましたのでお知らせします。新型コロナウイルス感染症による影響が長期化し、円安や燃油高による影響を受けた結果となりました。

2023年6月期(当期)の営業収入は505億3,900万円(前年同期比71.9%増)、営業損失は76億5,100万円(前年同期比67.5%増)、当期純損失は80億2,200万円(前年同期比66%増)となりました。

航空需要の回復に合わせて運航便数を増やした結果、総搭乗者数(有償ベース)は461.3万人(前年同期比36.3%増)、年間平均搭乗率は79.1%(前年は75%)となり、定時運航率は87%(前年は92%)と、堅調に推移しました。

ジェットスター・ジャパン 代表取締役社長 片岡優は次のようにコメントしています。

「昨年度も安全運航への注力、運航品質やカスタマーエクスペリエンスの向上、イノベーションの強化を継続してきました。今年の春以降は、航空需要の本格的な回復が見られ、多くのお客さまがご利用くださいました。今年7月には就航11周年を迎えたことを機に、お客さまにまた気軽な空の旅をしていただこうと考え、社員による国内就航地への『巡業の旅』で認知度の向上を図っております」

「機材については、昨年、環境への負荷を低減する最新鋭のエアバス A321LR を2機導入したのに続き、今年7月には3機目を導入し、その利便性と快適性でお客さまにご好評をいただいております」

「また、旺盛な訪日旅行への需要に応えるべく、昨年12月に約3年ぶりの国際線となる成田=マニラ線、今年1月には成田=台北線、3月に中部=マニラ線をそれぞれ再開しました。他の国際線の運航も順次再開する予定です」

「国内線においては、今年12月15日から成田=旭川線の運航を開始する予定です。同路線は当社にとって4年4か月ぶりの新規路線で、両空港を結ぶ唯一の直行便となります。これまで中断していた国内線ネットワークの拡充を再開し、お客さまの利便性を高めてまいります」

「新機材の導入および路線網の拡充は、当社が事業の回復を推し進めるうえで大きな弾みとなります。お客さまに低運賃で気軽な空の旅をお楽しみいただけるよう今後も努力してまいります」



ジェットスター・ジャパンは今後も路線網の充実・拡大を図り、各地域間の交流や観光を再び活性化できるよう、お客さまの安全・安心を第一に、低運賃でより気軽な空の旅を提供してまいります。

**【ジェットスター・ジャパンについて】**

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内15都市・海外2都市に就航し、国内線17路線・国際線3路線を運航中。就航から累積4,500万人以上のお客さまにご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>